

区長研修会で  
町政功労者を表彰

4月15日(土)、地域交流センターはなももにおいて、平成29年度揖斐川町区長会研修会が開催されました。

町政功労者表彰では、長年にわたり土地改良区役員として、地域の農業経営の合理化に尽くされた瀬古和世さん(志津山)と、長年にわたり体育指導員・スポーツ推進委員として、地域住民の体育向上に尽くされた森清司さん(谷汲長瀬)の2名が表彰されたほか、区長として町内自治の振興、発展に貢献された増田秀さん(三倉)に感謝状が贈呈されました。

研修会では、富田町長から平成29年度のまちづくり、主要事業等の説明がありました。

また、岐阜大学工学部シニア教授の高木朗義氏を招き、「住民主体・地域協働によるまちづくり」をテーマとした講演が行われました。



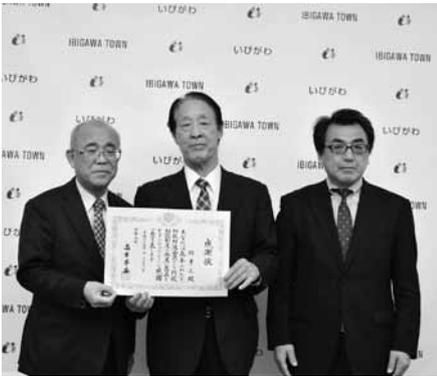
▲町政功労者表彰及び感謝状受賞の皆さん

総務大臣感謝状を贈呈

行政相談委員を退任された林孝さん(春日六合)の長年の行政相談事業の発展に寄与した功績に対して、富田町長立ち会いのもと総務省岐阜行政評価事務所長から総務大臣感謝状が贈呈されました。

林さんは、平成23年から6年間の長きにわたり、春日地域の相談委員として活躍されました。林さんは、「住民の言葉を聞くことの大切さを学んだ。今後は区長としてこの経験を生かしていきたい」と話されました。

「行政相談とは」 皆さんが暮らしの中で感じる行政サービスに関する意見や要望などを、総務大臣が委嘱した行政相談委員がお聞きします。相談は無料で、秘密は堅く守られます。



▲写真中央 林孝之さん

適切な通報及び初期消火活動で  
火災の拡大防止に貢献

3月19日(日)、揖斐川町谷汲名礼で発生した建物火災において、火災がまさに広がりかけているのを平井勇治さんが発見し、通りかかった平井茂子さんの携帯電話で消防署に通報しました。

その後、平井勇治さんは近くの消火栓でホースを2本延ばし、平井茂子さんはバルブを操作して放水し、2人の連携による適切な初期消火活動の結果、火災の拡大を防ぎ、被害を最小限におさえることができました。お二人には、揖斐郡消防組合消防長から感謝状が贈呈されました。



▲平井 茂子さん



▲平井 勇治さん

デザイン豊かな  
畳を楽しんで

全国に200社以上の加盟店を持つ、モダン乱敷き畳の会が開催している「モダン乱敷き畳アワード2016」で、揖斐川町の畳工房のぐちが最優秀賞を獲得しました。

モダン乱敷き畳とは、従来の畳の敷き方にとられず、一部屋の中で様々なタイプの畳を組み合わせた、デザイン性の高い畳の敷き方です。

全国の会員の投票で、最も多くの得票を集めたのが、畳工房のぐちが平成28年6月に施工した揖斐川町子育て支援センターの畳です。

素足でも衛生的に過ごせる畳は、子どもたちの遊び場にも適しています。町長に報告に訪れた畳工房のぐちの野口育夫さんは、「モダン乱敷き畳は若い世代にも受け入れられるデザインになってきている。たくさんの人に畳を楽しんで欲しい」と話しました。



▲写真右 野口育夫さん

新入生応援で地域貢献

3月31日(金)、揖斐川町上ミ野の西濃建設株式会社で小中学生への入学祝い品の贈呈式が行われました。

これは、西濃建設株式会社が今年から始めた地域貢献活動の一環で、揖斐郡内の小中学校に入学する新1年生をお祝いするために行っています。

贈呈式で、西濃建設株式会社の笹田哲夫代表取締役社長から富田町長にお祝い品と目録が手渡されました。お祝い品として、小学1年生には鉛筆1ダースと直角定規1本、中学1年生にはシャープペンシル1本が贈られました。



▲贈られた文房具



▲左 笹田社長 右 富田町長

下辻南・諸家清流発電所  
通電開始

4月20日(木)、揖斐川町小津で下辻南清流発電所および諸家清流発電所の通電式が行われました。

今回完成した2つの発電所は、全国で初めて、売電収益を地域振興のために利用できる「県単水力発電施設整備事業」により、農業用水を活用して整備された小水力発電施設です。

下辻南清流発電所は一般家庭90世帯分、諸家清流発電所は一般家庭200世帯分の年間使用電力に相当する電力を発電します。

通電式では参加者による通電開始のセレモニーが行われたほか、くぜ幼稚園、さかうち幼児園の園児によるミニモダンズが披露されました。



▲通電開始セレモニー（下辻南清流発電所）

桂茶生産組合てん茶ライン  
国内最大規模に

4月5日(水)、揖斐川町桂の桂茶生産組合で、てん茶ライン増設の竣工式が行われました。

今回増設されたのは、蒸した茶葉を遠赤外線乾燥させるレンガ造りのてん茶炉2基で、既設のもの合わせて計4基となりました。遠赤外線乾燥させるてん茶炉は従来の熱風乾燥させるものに比べて、香ばしさが増すなど品質の向上につながるほか、処理能力も向上しています。

遠赤外線式のてん茶炉を4基導入している製造工場は全国でも珍しく、国内最大規模となりました。

桂茶生産組合の花木毅組合長は、「高品質のお茶で、美濃いび茶の価値を高め、世界での流通と消費拡大も目指したい」と話しました。



▲てん茶ライン竣工セレモニー

300年余の伝統「いびまつり」  
子ども歌舞伎を熱演

江戸時代中期から続く伝統の「いびまつり」が5月4〜5日にかけて行われ、会場となった三輪神社一帯は約3万7千人の来場者で賑わいました。

神社境内には豪華絢爛な5輛の軸が曳き揃えられ、中町の軸では小学2〜6年までの児童ら9人がきらびやかな衣装をまとい、今年の子ども歌舞伎の演目「鏡山 旧錦絵」を堂々と披露、役者らが見えを切るたびに、観客からは大きな拍手と歓声が沸き起こりました。

最終日、数々の神輿が威勢よく担がれ登場すると、祭りは最高潮を迎え大いに盛り上がりました。



▲住吉軸の舞台上で子ども歌舞伎を演じる児童